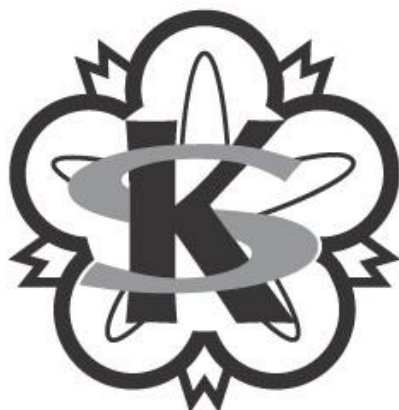


第 4 学年 小石川フィロソフィーⅣ
平成 30 年度 講座概要集



番号	講座名	人数
1	日本近現代文学	13人
内容(目標, 進め方など)		
近現代の小説家を取り上げ、その人物、作品、思想、時代について考察する。同一作家の複数の著作を鑑賞する作業を通し、作品の理解を深化させ、作家について考えさせる。作家論または作品論として考察の結果を示すこととする。		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)		
素直に作品に向き合うこと。評論家の評価に惑わされることなく、真摯に作品と向き合い、自らの解釈を示すことを期待する。		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
真剣に取り組む対象となる小説家または作品を探しておくこと。		
費用(見込み)		
必要に応じ、参考文献の購入代金		

番号	講座名	人数
2	『源氏物語』に挑む	13人
内容(目標, 進め方など)		
『源氏物語』は、世界最古の長編文学(諸説あり)として、国内外での評価も高い屈指の古典文学作品である。物語中に流れる時間は約70年、登場人物は500名を超え、約800首の和歌を擁する。古典中の古典である所以は、千年以上の間、どのように研究されても、物語の骨格が揺るぐことなく、作品の魅力が損なわれないところにある。その『源氏物語』に、様々な切り口で挑む。 例えば、与謝野晶子・谷崎潤一郎らの訳と池澤夏樹編集角田光代版『源氏物語』の比較。アーサー・ウェイリーやエドワード・サイデンステッカーの英訳と古文の比較。『源氏物語』に使われている風水。『源氏物語』中に出てくる花の象徴性。切り口は、千差万別。どんなふうにも作品に切り込んでも、『源氏物語』は『源氏物語』として、我々の前に存在するはずである。その『源氏物語』を読むことを目標とする。		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)		
文献(古文・漢文を含む)をたくさん読みます。演習形式をとる予定です。最終的に、論文に落とし込みます。よって、本を読むことが苦痛な生徒は受講をお勧めしません。		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
筆記用具		
費用(見込み)		
書籍代として1000~2000円程度の出費あり。		

番号	講座名	人数
3	Cool Japan 海外へ広がる日本文化	13人
内容(目標、進め方など)		
<p>海外へ発信された日本文化、海外へ発信したい日本文化についての研究を通して、日本文化の特殊性・普遍性を探る。</p> <p>1学期: COOL JAPAN に関する基本的な情報を得る。講義・輪読(英語論文)を行う。</p> <p>2学期以降: 各自が決めたテーマについて調査・発表し、論文をまとめる。</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)		
<p>アニメやマンガ、カワイイなどのオタク系文化や、歌舞伎・和食などの伝統文化に興味がある人の参加を待つ。海外からみた日本文化を理解するために、1学期の輪読(1つの長い文章や本を、少しずつ分担して読んで、他の人に紹介する)は、英語文献である。</p> <p>2学期以降は、自分で決めたテーマを調査していくので、文献を読んだり、資料を調べたりすることが好きでなければいけない。講座内で途中経過の報告・討論をするので、自分が興味を持った分野以外のことにも積極的に興味・関心を持って発言できなければいけない。</p> <p>原則として毎回アクションペーパー(何をやったか・次回への課題)の提出を求める。</p>		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
図書室にある昨年度までのレポートに目を通しておくこと良い。		
費用(見込み)		

番号	講座名	人数
4	映画で描かれた戦争について考える	13人
内容(目標、進め方など)		
<p>戦争を主題とした映画を観て、戦争と平和について考える。1学期は齊藤が紹介する戦争を主題とする映画を観て、その映画についてのプレゼンテーションをしてもらう。2学期は各自が選んだ戦争を主題とする映画について、ディスカッションをおこなう。後半から論文の下書きを始める。3学期は論文の完成を目指す</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)		
映画に興味のある生徒、戦争と平和について考えてみたいと思っている生徒の受講を希望する		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
3年次に購入した帝国書院出版のタペストリー世界史を持参すること		
費用(見込み)		

番号	講座名	人数
5	役立つ数学～統計解析入門～	13人
内容(目標, 進め方など)		
<p>統計に関する知識はいまや基礎教養といえる。あらゆる媒体に統計グラフが溢れ、ポイントカードで趣味嗜好を分析され、数値一つに人生を左右されと、世はまさに大(ビッグ)データ時代!</p> <p>本講座では、自然科学に限らず心理学や経済学といったどの分野でも重視される推測統計学(区間推定・検定)の基礎を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期～2学期前半:教科書を輪読形式で読み、知識や見方を深める。 ・2学期後半:各自で研究テーマを設定し研究に取り組む。また、統計処理に最適なフリーソフト「R」の基本的な操作方法について学ぶ。 <p>[過去の研究テーマ]</p> <p>心理テストの信憑性、統一球の変更による成績の変動はあったか、モーツァルト効果は本当にあるのか、じゃんけんの勝率を上げる方法、各会社による天気予報が当たる確率の違いは? etc</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)		
グループ毎に講師役を行い、残りの皆に教えるといった形式で授業を進めます。責任感を持って、仲間と学び合うことが好きな人はぜひ受講して下さい(もちろん、数学も大切です…)。		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
ノート、筆記用具、 <u>統計を深める心</u>		
費用(見込み)		
なし		

番号	講座名	人数
6	結び目理論入門	13人
内容(目標, 進め方など)		
<p>長さや形などに影響される合同や相似のような古くて堅苦しい幾何ではなく、やわらかい最新の幾何(位相幾何学)の一分野である結び目理論を学ぶ。</p> <p>結び目の専門書を凍読形式で、各自が担当し、調べた内容を板書し、説明する。それについて他の生徒と議論し、内容を深めていく。2学期後半からは、それまでで得た結び目の知識を基に、自らの研究を進める。3学期に発表練習、論文作成をする。</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)		
数学への探求心と楽しめる心が必要である。		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
筆記用具、ノート		
費用(見込み)		
なし		

番号	講座名	人数
7	空飛ぶ物理一座	10人
内 容 (目標, 進め方など)		
① 物理チャレンジなどの参加 (未定) を通じて実験の技術とレポートの書き方を学ぶ。 ② その後、それぞれの興味・関心に応じた研究を行う。		
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)		
定員を上回る希望があった場合は、3年で理科の講座を選択した人や、すでに今年の物理チャレンジの実験課題に取り組んでいる人を優先したいと思いますが、やる気のある生徒、教員の指示を待つのではなく自ら考えて行動できる人、あきらめない人を求めています。		
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)		
物理チャレンジのウェブサイトを見るなど、自分の興味関心を見つめなおしてください。ノートの手配も。		
費用 (見込み)		
物理チャレンジ参加費¥2000 各自の実験に必要な物品の購入代。実験装置は、物理室にあるものであれば、基本無料で利用できます。		

番号	講座名	人数
8	化学分野の研究	7人
内容(目標, 進め方など)		
<p>①化学分野の疑問や、調べてみたいことを探す。 → 化学に興味があり、疑問を思いつく生徒が、この講座の受講に適している。</p> <p>②テーマを設定する。 → 個別に実験を行い、研究の基本トレーニングを行う。 研究の道筋が立てられたものの中から、テーマを一つに絞る。 テーマの設定こそ、最も時間がかかり、もっとも重要な部分である。</p> <p>③研究活動を行う。 → 放課後のオープンラボも活用して、研究を行う。 研究の進捗状況に気を配り、先の予定を考えながら進める必要がある。</p> <p>④SSH発表会やコンクール、校内での発表会等、成果を発表する。 → 原則として、受講者全員が何らかの発表を行う。 発表のための資料作りや、発表練習も必要である。</p> <p>参考までに、昨年度のテーマを次に示す。「塩化物イオンの電解酸化」「過酸化水素水を用いた電池の耐久性」、「シャボン玉の滞空時間とシャボン液の関係」、「果実の香りを合成する」、「シャボン液の組成」、「過酸化水素水を用いた電池の耐久性」、「変形菌の変形体のシグナルについて」、「黒豆由来のアントシアニンについて」、「オランダの涙の中の空間」、「ヨウ素デンプン反応の発色について」</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)		
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後や休日(夏休みなど)のオープンラボも活用し、意欲的に研究する生徒を求めます。 ・自分でテーマを設定して研究するので、化学への興味・関心が低い人、自分からの目的意識がない人には向いていません(受け身では研究ができない)。 ・研究内容によっては、器具や薬品などを購入してもらう必要があります。 ・費用負担があることを、保護者の方とともに了承してください。 		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
<ul style="list-style-type: none"> ・化学分野の疑問や、調べてみたいことを5つ以上探しておく。図書館にある昨年度までの研究に目を通す。 ・白衣と安全めがねを用意する。 		
費用(見込み)		

番号	講座名	人数
9	生物学研究	7人
内 容 (目標, 進め方など)		
<p><u>目標</u> 研究活動を通して3つの力を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 生物学研究の手法 (実験・観察) や論文の書き方を学ぶ。 ➤ 研究活動を効果的に進める手法 (→プロジェクト管理) を学ぶ。 <p><u>進め方</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを設定する。 <ol style="list-style-type: none"> ① テーマを設定する一般的な方法を学ぶ。 ② 生物学分野の疑問や、調べてみたいことを探す。 ③ 関係する既知の事実や研究について調べる。 ④ テーマの重要性や実現の可能性を検討し、テーマを一つに絞る。 2. 研究計画を立てる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 研究計画の作成方法・進捗管理の方法を学ぶ。 ② 研究計画を立てる。 3. 研究活動を行い、成果をまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 必要な観察・実験を行う (放課後等、オープンラボも活用する)。 ② 関係する既知の事実や研究について調べる。 ③ 論文等の作成を行い、研究成果を分かりやすくまとめる。 <p>その他、講座内で定期的に研究の進捗状況の共有を行います。また、研究成果はSSH発表会やコンクール等、外部へ積極的に発信していきましょう。</p>		
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)		
<p><u>要望・心構え</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物に対する興味・関心があり、積極的に学び、行動する意思があること。 2. 研究の対象となる生物に敬意をもち、粘り強く観察に取り組むこと。 3. 放課後や休日・長期休業中のオープンラボも活用し、意欲的に研究する意思があること。 <p><u>注意点</u> 研究内容によっては、実験器具・薬品などを購入したり、生物試料を自分で捕獲したりする場合があります。費用負担が発生するかもしれないことを、保護者の方とともに了承してください。</p> <p><u>選考方法</u> 受講希望者数が募集人数を超えた場合は、「生物学分野の疑問や調べてみたいこと」をテーマに面談を行い、受講者を決定したいと思います。</p>		
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学分野の疑問や、調べてみたいことを5つ以上探しておく。 2. 1に関連する書籍を探し、持参する。 3. 資料整理用のファイル、フィロ4ノート、付せん、ボールペン (黒 or 濃紺) を用意する。 		
費用 (見込み)		
—		

番号	講座名	人数
10	地学研究	9人
内容(目標, 進め方など)		
<p>地学に関するテーマを設定し、データを集め、グラフ化して検討し、考察を行う。自然現象を捉えることは難しいが、地道に観測データを蓄積してまとめて欲しい。テーマによっては、フィールドに出向き、データをとらなくてはならないものもある。ちなみに、昨年度から相手を頼ってしまう人もいたので、共同研究は、認めていない。9期生の主なテーマは、「赤羽自然観察公園の湧水について」「柳の井戸の湧水について」「和光市白子湧水群の湧水について」「大気汚染物質濃度と雨水の酸性度の関係について」「雨滴の大きさと雲の厚さについて」などである。引き継ぎを行い、継続研究ができるテーマもあるが、10期生が独自にテーマを設定し、取り組むことも期待している。</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)		
<p>地道に観測データを蓄積することは、とても大変な作業になります。途中である程度まとめてみると、方法が適しておらず、一からやり直さなければならないこともあります。フィロソフィの2時間は、途中経過を私に報告し、アドバイスを受ける時間です。とってきたデータをまとめる時間です。この時間以外に観測をして、データが集められない人は、この講座には向いていません。この1年の研究は、苦しいかもしれませんが、将来、大学で卒論を書く上で、きっと役に立つことでしょう。アドバイスを受けながら、前向きに取り組める生徒に受講して欲しいです。</p>		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
<p>受講するか迷う人は、地学室に過去の先輩の論文や資料も置いてありますので、気軽に質問をしに来てください。</p> <p>受講が決まった生徒は、何をどのように調べ、どうまとめていくか。いくつかのテーマの候補を準備してきてください。</p>		
費用(見込み)		

番号	講座名	人数
11	保健体育・スポーツ	12人
内容(目標, 進め方など)		
<p>1学期は自身の興味関心をもとにして競技力向上のための動作分析の実験・検証、食事・休養方法、保健活動、環境と健康、競技特有のけがへの対処、スポーツ障害、リハビリテーション、予防法、各種競技にかかわるデータ記録を戦略や対戦、技術力向上における分析を行う。</p> <p>2学期、3学期は1学期に取り組んだ内容を発展させ、研究を深め、発表できるように準備を進める。また、オリンピック・パラリンピックを支える分野や国際大会のもたらす経済効果や問題点、スポーツの発展やブームの社会的背景などについての研究も可能。</p> <p>3学期は論文作成が主となる。</p> <p>《補足》先輩が行った研究に興味がある生徒は研究を引き継ぐことも可能。(図書室の論文冊子参考)</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)		
<p>運動部活動を通して競技力向上を目指す人、または運動は得意でないがあらゆる側面からスポーツを深く考え、オリンピック・パラリンピックに関心がある人。実技は事前に打ち合わせの上、希望者のみ可。</p>		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
興味関心のある先行研究などの資料があれば持参する。		
費用(見込み)		

番号	講座名	人数
12	音楽表現	7人
内 容 (目標, 進め方など)		
① 個人研究		
② 選択者全員で1つのものを創り上げる ①②の両方を取り組んでいきます。		
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)		
芸術 (音楽分野) の表現方法について真剣に考え、意欲的に取り組める人 (バンドはやりません)		
調べた内容を発表・報告をします。《中間発表・最終発表》		
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)		
どんな表現活動を研究したいか考えておいてください。		
費用 (見込み)		
特になし。ただし、個人研究で購入するものは自分で購入してください。		

番号	講座名	人数
13	美術作品研究 (日本伝統文化)	7人
内 容 (目標, 進め方など)		
まず、1学期は日本の伝統文化について理解する。そのために美術館や博物館を訪問する場合もある。また、共通の課題を行う。2学期以降、自分の興味・関心に合わせて、さらに探求したいことを決定、研究して論文を作成する。		
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)		
作品制作がメインではありません。		
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)		
美術の教科書及び筆記用具		
費用 (見込み)		
美術館へ行く際の費用や実証や実験のために画材や用具を購入することがある。すべて、各自の負担となる。年間で1000円から3000円程度。		

番号	講座名	人数
14	Global Classmates 2018 & Romania Project	13人
内容(目標、進め方など)		
<p>アメリカとルーマニアの高校生とインターネットで交流する講座です。お互いの文化や歴史、身近な学校生活のことからその時のホットな話題まで、海の向こうの同世代の高校生がどんな生活をして、何を考えて生きているか、様々な情報をブログで交換します。論文作成については、比較文化の観点から各自がテーマを決めて基本的に英語で作成します。</p> <p>(なお、アメリカの高校との交流は申請中で、交流が可能かどうかは6月に決定します。)</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)		
<p>毎回、英語でブログを書いています。伝えたいものを自分で探し、英語で主体的に伝えることが必要になります。英語が好きな生徒の参加をお待ちしています。</p>		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
<p>①小石川ノート②筆記用具 一度、自宅のPCでWordPressとSchoologyにアクセスしてみてください。</p>		
費用(見込み)		
アメリカの学校との「お土産Project」を予定しています。予算：一人500円です。		

番号	講座名	人数
15	Academic & Parliamentary Debate in English	13人
内容(目標、進め方など)		
<p>リベラルアーツ教育としてのDebate講座です。今まで以上に一人一人が社会に関心を持ち主体的に調査、分析したことをもとに仲間と議論を深め、Debate活動を通して課題解決のための思考力・判断力・表現力を養成することが目的です。Debateは主張することよりも傾聴の訓練であることを忘れずに。対立ではなく平和のための議論です。社会で起こっている問題は、正解はこれだ、という直線的な発想では解決できないことばかりです。物事を多角的に捉えて物事の本質に迫ること、自分と異なる考えの人を理解して意思決定を促進する力、多様性の理解が大切です。最終的にはAcademic DebateとParliamentary Debateの全国大会に出場できるレベル到達を目指します。</p>		
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)		
<p>Academic DebateとParliamentary Debateを隔週で交互に行います。次週の論題に対するリサーチと準備を要求します。生徒の主体的な参加姿勢を求めます。相手の力量が拮抗して初めて議論が深化し、互いに切磋琢磨しあえるので、1人1人がその自覚をもって真剣勝負をしてほしい。自分自身が納得のいくまで徹底的に物事を考え抜くという気概と知的好奇心を持った生徒を求めます。</p>		
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)		
電子辞書、筆記用具		
費用(見込み)		
書籍購入費 Pros and Cons A Debater's Handbook (¥3,308)		